号外　なるほど！県政チャンネル　◎諫早湾干拓事業

開門調査をすれば影響が心配

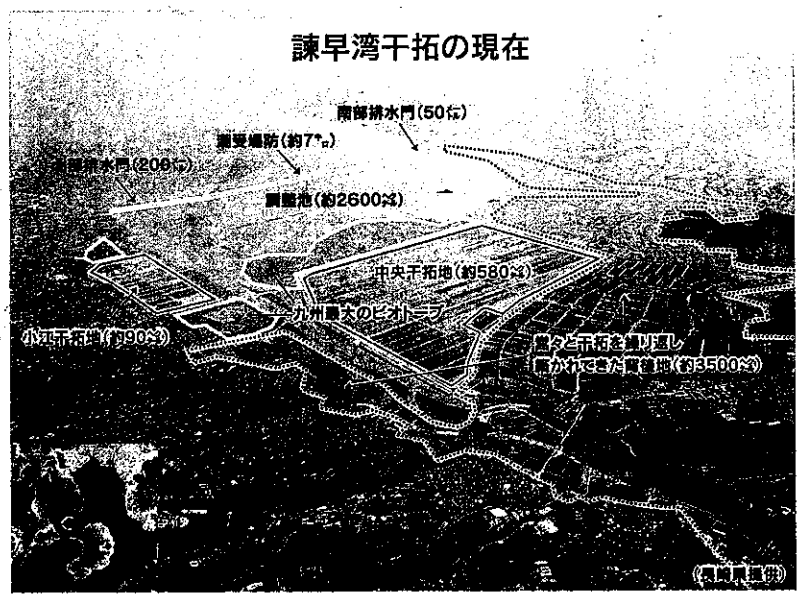
新しい広報スタイルの「なるほど！県政チャンネル」がこの秋始まった。主要事業について、動画やQ＆Aなどで分かりやすく説明するインターネットサイトで、県の公式サイト上に置かれている。常時閲覧ができる一方、高齢者らの利用が少ないのがインターネットの特性。これを踏まえ、幅広い層に情報を伝えるテレビや新聞も活用するクロスメディアの手法で、より深い理解を目指す取り組みだ。この企画のまず最初のテーマに選ばれたのが諫早湾干拓事業。県が重要視する県政テーマのひとつだ。事業をめぐっては、有明海への影響を心配する漁業者らもいる。事業の効果は発揮されているのか。また、開門調査による影響はどうなのか。県諫早湾干拓室の加藤兼仁室長に聞いた。

《県政チャンネルでは、諫早湾干拓地周辺の防災機能について詳しく説明されていたが、実際に防災機能は発揮されているのか》

大きくは2つ。高潮対策と洪水・排水対策だ。大潮の満潮時に台風などが重なると、潮が押し寄せ、住宅や農地に高潮被害を与えた。また、河口部や排水口部には潟土がたまりやすく、排水不良を起こし、たびたび洪水の被害が起きた。干拓事業後は高潮被害はなく、洪水被害も大きく軽減された。実際、長崎大水害と同程度の雨でも被害はほとんど出なかった。

《2回目放送のタイトルは「農業の将来モデル」だった。干拓農地の農業者はいずれも、環境に優しい農業を手掛けるエコファーマーの県知事認定を受けているそうだが、農地利用の状況は》

41の経営体が入植して頑張っている。調整池の淡水化による農業用水の確保、平たんで大区画での効率的な営農、農薬などを極力使わない農業を進めている。太陽光発電の利用、ソーラー農機具の実証試験などの先進的な取り組みもある。ミネラル分が豊富な干拓農地で育った野菜はおいしいとの評価がある。収穫された野菜を海外に輸出する計画も進められている。干拓農地の広さは672㌶だが、昨年、野菜や飼料作物など42品目が栽培され、年間延べ作付面積は約1500㌶を超えた。気候が温暖で、用水も十分にあるから農地の利用が活発で、最盛期で約700人が働き、地域の貴重な雇用の場にもなっている。



（農林水産省）

《国が検討している潮受堤防排水門の「開門調査」については全5回の放送のうち2回にわたって取り上げ慎重な判断を求めていた。県としての危ぐの強さを表していると思うが、県が開門調査に反対する理由は何なのか》

まずは防災機能に支障が出て地域住民の安全安心に影響を及ぼす恐れがあるからだ。また、干拓農地の先進的な営農も用水確保ができなくなる上、塩害、潮風害が発生し、成り立たなくなる懸念がある。さらに、後方にある広大な農地も潮風害や潮の流入によって、農業用水の確保が難しくなるなど大きな影響を受ける。2つの排水門は全長7㌔の堤防のうち北部200㍍、南部50㍍しかなく、仮に排水門を常時開放して調査が行われれば、そこに激流が発生、潟土が巻き上げられ、諫早湾内の漁業だけでなく、有明海全体に悪影響を与えかねない。国は環境アセスメントによる科学的な調査結果などを踏まえ、慎重な判断をしてほしい。また、影響を受けるのは地元の方々だ。地元の同意なしには開門調査を実施すべきではない。

《長期の開門調査実施のためには対策工事として少なくとも約680億円が必要と試算しているが、その中味は》

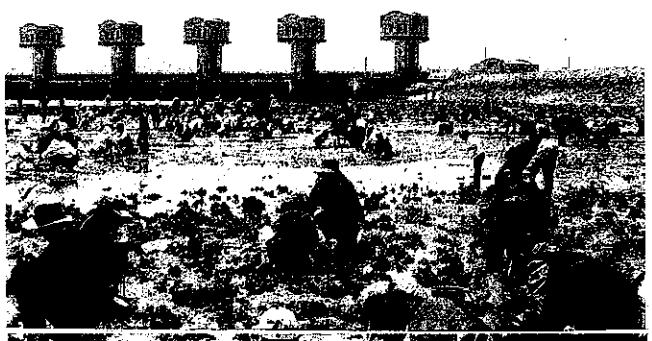
国の専門家による会議の試算では、排水門の補強や防災関連工事などに約631億円がかかる。これに、県として必要と考える旧堤防の補修など約50億円を加えたのがこの数字だ。しかも、これには農業用水の確保のための経費は含まれていない。また、実際にはこれだけやっても全ての問題が解決されるわけではない。

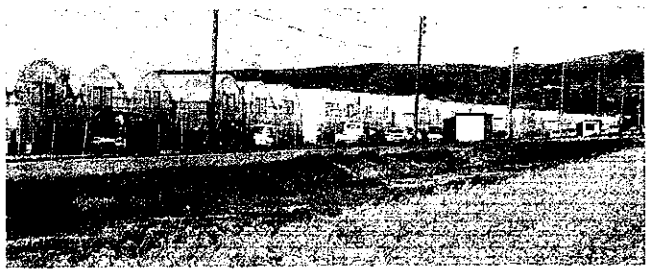
《潮受堤防の締め切り前から有明海の魚介類の漁獲量減少が起きていたことやノリの生産が締め切り後も増加傾向にあると指摘しているが》

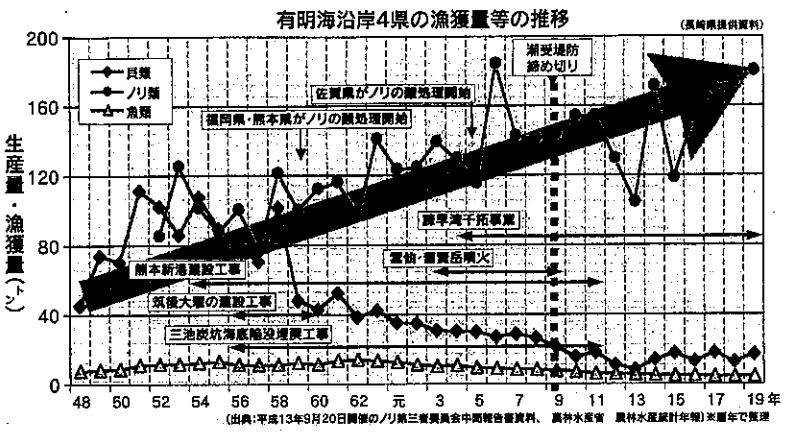
有明海4県の漁獲量等の推移を知ってほしいのだが、ノリの生産量は増減を繰り返しながらも増加傾向といえる。貝類の漁獲量は諫早湾干拓事業が始まる前の昭和50年代後半、有明海に流入する最大の河川である筑後川から取水する福岡県の筑後大堰（おおせき）建設、3㌔の防波堤を備えた熊本新港建設、ノリ養殖の酸処理などが始まった時期に大幅に落ち込んでいる。有明海全体として影響が疑われる様々な要因を考え、全体的な対策をとるべきだと考えている。

締め切りの前と後の防災効果の比較

◎前（昭和57年7月＝長崎大水害）	◎後（平成11年7月）
最大時間雨量　99㍉	最大時間雨量　101㍉
総雨量　492㍉	総雨量　342㍉
農作物被害額　1億700万円	農作物被害額　300万円
冠水　4～5日継続	冠水　ほぼ同日中に解消


潮干狩りを楽しむ家族連れ（諫早湾干拓北部排水門前・諫早湾側）


中央干拓地のトマトなどの大型ハウスと従業員の車の列



なるほど！県政チャンネル
第1回目テーマ　諫早湾干拓事業
放送内容は以下の通りでした。
- 第1回「自然災害から地域を守る」
- 第2回「農業の将来モデル」
- 第3回「開門調査による影響（1）」
- 第4回「開門調査による影響（2）」
- 第5回「有明海の再生」

テレビ放送は終了しました
県のホームページ動画でご覧ください。

企画・制作／長崎新聞社営業局

長崎新聞社営業局企画部は今回の企画に対する意見・質問を募っています。応募者の中から5人に2000円分の図書カード、10人に長崎新聞オリジナルスポーツタオルをプレゼントします（応募多数の場合抽選）。県政チャンネルで取り上げられたテーマの「諫早湾干拓事業」についての意見・質問を書いて、①住所 ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤電話番号を記入して右のあて先までお送りください。

◎封書、はがき＝〒852-8601 長崎市茂里町3-1 長崎新聞社営業局企画部「号外 なるほど！県政チャンネル」係
◎ファクス＝095・844・2119
◎メール＝k-kikaku@nagasaki-np.co.jp
◎締め切り＝11月5日（金）必着
※届いた意見・質問は、今後のこの企画の制作に生かすほか、匿名化（性別・年齢のみ）して集約し、県に提言します。個人情報はプレゼントの発送、問い合わせのためのもので、それ以外には用いません。

●第2回目テーマ　九州新幹線西九州ルート

●第1回
「九州新幹線西九州ルートって？」
長崎県にとって新幹線がなぜ必要なのか、中国・関西圏へのアクセスの意味、整備状況などを全般的に説明。

●第2回
「期待ふくらむ、新幹線！」
新幹線がもたらす交流人口増などの期待を語る。移動時間短縮に加え、本州とつながるメリットなどを解説。

●第3回
「観光は長崎のエンジン」
長崎県にとっての「観光」の重要性と現状、新幹線が観光にもたらすとみられる効果などを説明。

●第4回
「着々と進んでいます」
現在進んでいる武雄温泉～諫早間の5件のトンネル工事の中から鈴田トンネルの工事現場を紹介。

●第5回
「新幹線を活かしたまちづくり」
沿線自治体による新幹線5市サミットの模様などを通し、地元市長らが新幹線によるまちづくりに期待を込める。

民放テレビ局の放送時間 ▷10/13～11/13　・NBC／水曜日19:55～　・NCC／木曜日18:55～　・NIB／金曜日22:54～　・KTN／土曜日15:55～

長崎県